

いざという時のために...

自主防災組織の結成を!!

自分たちのまちは、自分たちで守る

災害はいつ起るかわからない!

「自主防災組織」とは?



昨年は、大型台風が日本列島に次々と襲来し、愛媛県内においても記録的な雨量を観測するとともに、多数の被害が発生しました。

通常の予測を上回る雨量や強風によって、山腹の崩壊をはじめ、河川の増水、倒木の発生による生活道路の寸断など、近年では例をみない被害が多発しました。

松前町においては、消防団などの懸命な対応もあって大きな浸水被害はありませんでしたが、多くの暴風の被害を受けました。

このような災害は、いつ起こるのか予測が難しく、また、その被害は時に人間の想像をはるかに絶することがあります。



す。そのうえ、大災害時ににおける行政や消防団の活動には限界があると言わなければなりません。

そこで今、全国各地では災害に備えて「地域が一体となった防災組織（＝自主防災組織）」をつくろうとする動きが活発化しています。

- 防災対策の基本
- ① 自助：住民一人ひとりが自分の命は自分で守る
 - ② 共助：地域住民が連携して町の安全はみんなを守る
 - ③ 公助：行政が災害に強い地域の基盤整備を進める

この3つが連携を保つことで、防災対策は効果を発揮することができるのです。

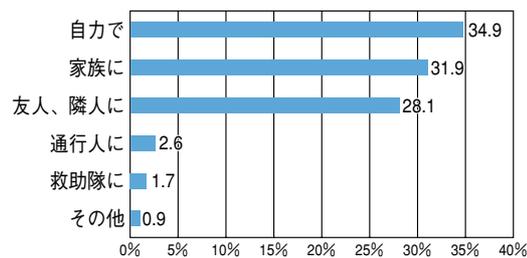
平成7年1月に発生した阪神淡路大震災では大勢の方が家屋の倒壊などによって、生き埋め又は閉じ込められたりしましたが、そのうち約95%は自力又は家族・隣人・友人

に救出され、消防などの公的機関に助けられたのはわずかに1・7%だったというデータが報告されています。

大規模災害などが発生した時、自分の身は自分が、家族の身は家族が守るということは当然のことかもしれませんが、個人や家族の力には限界があります。また、それぞれが単独で動いていては、かえって危険や混乱を招くおそれもあります。

このような時こそ、隣近所の人と協力しあい、組織的に行動することが大切です。そして、そうすることによってこそ、人的被害などを最小限に食い止めることができるとも言えるでしょう。

■生き埋めや閉じこめられた際の救助



(社)日本火災学会:「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」による

このように、災害発生時はもちろん、日頃から防災について地域住民が一体となって考え、活動を展開していくための組織が「自主防災組織」です。